

2018年度幾何学 III 演習問題 8 v1

'18/12/4 (火)

改変履歴. '18/12/4 : (v1) 初版作成. 概ね 12/4 の講義までの内容である.

ここでは de Rham コホモロジーの具体的な計算について扱う.

問 8.1. $S^1 = \mathbb{R}/\mathbb{Z}$ と見なし, $\pi: \mathbb{R} \rightarrow S^1$ を射影とする. また, $\tau: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$ を $\tau(x) = x + 1$ により定め, $p \in \mathbb{Z}$ について

$$\Omega^p(\mathbb{R})^{\mathbb{Z}} = \{\omega \in \Omega^p(\mathbb{R}) \mid \forall x \in \mathbb{R} \mid \tau^*\omega = \omega\}$$

と置く.

- 1) 特に $p = 0$ とする. $f \in \Omega^0(\mathbb{R})^{\mathbb{Z}}$ であることと, $\forall n \in \mathbb{Z}, x \in \mathbb{R}, f(x+n) = f(x)$ が成り立つことは同値であることを示せ.
- 2) $\omega \in \Omega^p(S^1)$ とする. $\pi^*\omega \in \Omega^p(\mathbb{R})^{\mathbb{Z}}$ が成り立つことを示せ.
- 3) $\tilde{\omega} \in \Omega^p(\mathbb{R})^{\mathbb{Z}}$ とする. この時, $\pi_*\tilde{\omega}$ を, $p \in S^1$ について $p = t \pmod{\mathbb{Z}}, t \in \mathbb{R}$ と表して $(\pi_*\tilde{\omega})_p = \tilde{\omega}_t$ と定めると, $\pi_*\tilde{\omega}$ は well-defined であって, $\pi_*\tilde{\omega} \in \Omega^p(S^1)$ が成り立つことを示せ.
- 4) π^*, π_* はそれぞれ C^∞ 加群としての同型であって, 互いに逆写像であることを示せ. また, \mathbb{R} 上の外微分作用素を $d_{\mathbb{R}}$, S^1 上の外微分作用素を d_{S^1} とすると $d_{\mathbb{R}} \circ \pi^* = \pi^* \circ d_{S^1}$, $d_{S^1} \circ \pi_* = \pi_* \circ d_{\mathbb{R}}$ がそれぞれ成り立つことを示せ.

問 8.2. $H_{\text{dR}}^r(S^1) \cong \begin{cases} \mathbb{R}, & r = 0, 1, \\ \{0\}, & r \neq 0, 1 \end{cases}$ が成り立つことを以下に従って示せ (ほかの方法も後で扱う).

- 1) $p \in S^1$ を固定する. $\varphi^0: H_{\text{dR}}^0(S^1) \cong \mathbb{R}$ を, $c \in H_{\text{dR}}^0(S^1)$ を $c = [f], f \in Z^0(S^1)$ と表して $\varphi^0(c) = f(p)$ により定めると, φ^0 は well-defined であって, また, p の選び方に依らないことを示せ. また, φ^0 は線型同型写像であることを示せ.
- 2) $S^1 = \mathbb{R}/\mathbb{Z}$ と見なし, $\pi: \mathbb{R} \rightarrow S^1$ を射影とする. $\psi: \Omega^1(S^1) \rightarrow \mathbb{R}$ を, $\omega \in \Omega^1(S^1)$ について $\psi(\omega) = \int_0^1 \pi^*\omega$ と置くことにより定める.
 - a) $\gamma: [0, 1] \rightarrow S^1$ を $\gamma(t) = t$ により定めれば, 線積分の定義により $\psi(\omega) = \int_\gamma \omega$ が成り立つ. ここで, S^1 の基点を固定する. $\zeta: [0, 1] \rightarrow S^1$ が γ に C^∞ 級にホモトピックならば $\psi(\omega) = \int_\zeta \omega$ が成り立つことを示せ.

ヒント : ω が閉形式である必要があるが, ここではこれは自動的に成り立つ.

b) ψ は基点の取り方に依らないことを示せ.

c) $\omega = df$ が $f \in \Omega^0(S^1)$ について成り立つならば $\psi(\omega) = 0$ が成り立つことを示せ.

d) $\psi(\omega) = 0$ とする. $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$ を $f(t) = \int_0^t \omega$ により定めると f は C^∞ 級であって,
 $\forall t \in \mathbb{R}, f(t+1) = f(t)$ が成り立つことを示せ.

e) $\psi(\omega) = 0$ ならば $f \in \Omega^0(S^1)$ が存在して $\omega = df$ が成り立つことを示せ.

3) 最初の主張

$$H_{\text{dR}}^r(S^1) \cong \begin{cases} \mathbb{R}, & r = 0, 1, \\ \{0\}, & r \neq 0, 1 \end{cases}$$

が成り立つことを示せ.

問 8.3. $A = (A^*, d_A), B = (B^*, d_B)$ をそれぞれ複体とし, $f: A \rightarrow B$ をコチェイン写像とする.

1) $a \in Z^r(A)$ とする. このとき, $f^r: A^r \rightarrow B^r$ について $f^r(a) \in Z^r(B)$ が成り立つことを示せ. また, $a \in B^r(A)$ とすると $f^r(a) \in B^r(B)$ が成り立つことを示せ.

2) f^r は $f: H^r(A) \rightarrow H^r(B)$ を自然に誘導することを示せ.

3)

$$0 \longrightarrow A \xrightarrow{f} B \xrightarrow{g} C \longrightarrow 0$$

を複体の完全列とする.

$$\dots \longrightarrow H^{r-1}(C) \xrightarrow{\partial} H^r(A) \xrightarrow{f} H^r(B) \xrightarrow{g} H^r(C) \xrightarrow{\partial} \dots$$

は完全系列であることを示せ.

問 8.4. $H_{\text{dR}}^r(S^n) \cong \begin{cases} \mathbb{R}, & r = 0, n, \\ \{0\}, & r \neq 0, n \end{cases}$ が成り立つ. このことを以下に従って示せ.

1) $S^1 = \mathbb{R}/\mathbb{Z}$ とみなす. そして $U_0 = (-1/6, 2/3) \bmod \mathbb{Z}, U_1 = (1/3, 7/6) \bmod \mathbb{Z}$ とする.

a) U_0, U_1 を図示せよ. また, $U_0 \cap U_1$ を求めよ.

b) S^1 について主張が成り立つことを示せ.

2) $S^n = \{(x_0, \dots, x_n) \in \mathbb{R}^{n+1} \mid x_0^2 + \dots + x_n^2 = 1\} \subset \mathbb{R}^{n+1}$ と見なす. また, $U_0 = \{(x_0, \dots, x_n) \in S^n \mid x_n > -1/2\}, U_1 = \{(x_0, \dots, x_n) \in S^n \mid x_n < 1/2\}$ と置く.

a) U_0, U_1 を図示せよ. また, $U_0 \cap U_1$ を求めよ.

b) $S^n, n > 1$ について主張が成り立つことを示せ.

問 8.5. $N \subset M$ を部分多様体とし, $\dim M = m, \dim N = n$ とする. $\{U_i\}$ を局所有限な N の開被覆であって, U_i は $D^n \times D^{m-n} \subset \mathbb{R}^m$ に, $U_i \cap N$ は $D^n \subset \mathbb{R}^n$ に同相なものとする. ここで, D^k で k 次元の単位開球を表す. また, $\{U_\lambda\}$ を局所有限な M の開被覆であって, U_i 達を全て含むものとする.

- 1) このような $\{U_i\}, \{U_\lambda\}$ が取れることを示せ.
- 2) $\{\rho_\lambda\}$ を $\{U_\lambda\}$ に従属する 1 の分割とする. また, $V_i = U_i \cap N$ とする. $\omega \in \Omega^r(N)$ について, $\omega_i = \omega|_{V_i} \in \Omega^r(V_i)$ とする. このとき, $\mu_i \in \Omega^r(U_i)$ であって, $\mu_i|_{V_i} = \omega_i$ が成り立つものが存在することを示せ. また, $\mu = \sum \rho_i \mu_i$ とすると $\mu \in \Omega^r(M)$ であって, $\mu|_N = \omega$ が成り立つことを示せ.
- 3)

$$0 \rightarrow \Omega^*(M, N) \rightarrow \Omega^*(M) \rightarrow \Omega^*(N) \rightarrow 0$$

は複体の完全列であることを示せ.

- 4) $M = T^2$ とし, $\mathbb{R}^2/\mathbb{Z}^2$ と同一視する.
 - a) $N = \mathbb{R}(1, 1)/\mathbb{Z}^2 \subset T^2$ とする. このとき, 3) が成り立つことをなるべく直接的に確かめよ.
 - b) $N = \mathbb{R}(1, \sqrt{2})/\mathbb{Z}^2 \subset T^2$ とする. このとき, 3) が成り立たないことを示せ.

問 8.6. 1) $T^n = (S^1)^n$ とする. $H_{dR}^*(T^n)$ を求めよ.

- 2) $S^n \subset \mathbb{R}^{n+1}$ と見なす. また, $\mathbb{R}^n = \mathbb{R}^n \times \{0\} \subset \mathbb{R}^{n+1}$ と見なし, これに従って $S^{n-1} \subset S^n$ と見なす. このとき, $H_{dR}^*(S^n, S^m)$, ただし $n \geq m$, を求めよ.

(以上)